

今明かされる 香美の由来



香美市の名称の由来といえば、合併前の香美郡を想像される方が多いでしょう。
では、香美という呼び名は一体どこからきたのでしょうか。今月号では香美史探訪記を拡大し、その由来についてお伝えします。

地方制度が整えられた元明天皇の奈良時代・和銅6年(713)「郡郷の名はよき2字にせよ、山川原野の名号のいわれ、また古老の旧聞異事は史籍に載せて言上せよ」とある。これを受けて、鏡を2字で書く『香美』を郡名としたのではないかと考えられる。平安時代(900年代)の倭名類聚抄に、『香美』

は漢字のふりがなで『加々美』と書かれている。香美を『カガミ』と読むのは、奈良平安時代に、香のふりがなである『カウ』の子音『ウ』を『カ』に転じて、国名・郷名に使っていたからである。他の例をあげると、相模は『サウモ』を『サガミ』。岡山県備前市の郷名香止は『カガト』と読む。

では、なぜ鏡かというと、その一つに、条里制により整えられた水田や清流が鏡のように映したということが挙げられる。土佐山田町岩次には条里制時の郡衙跡がある。条里制度とは、古代における土地区画の整備方法で、土地を基盤目状に区切り、班田収授制における口分田の配分を円滑にしたものである。

岡山県吉野川は清流と北に支流香々美川がある平野で条里制の遺る町である。鏡野の名は、中心部を構成していた香美郷・野毛郷の頭文字を合わせて生まれた。徳島県阿波市市場町香美は、吉野川支流の日開谷川左岸にある平野で物部川流域の地形と似る。

他の由来としては、片地の鏡岩や、当時貴重な鏡の存在が考えられる。鏡は古来から神秘的な力を持つものとして、神聖視され、ときには『神の化身』とまで思われていた。旧香美郡内では、香南市野市町上岡の下ノ坪遺跡から、唐式鏡である四仙騎獣八稜鏡が出土している。

至 香北町

かがみがわ 鏡川

(現・物部川)

江戸時代の元禄13年(1700)に五代藩主・山内豊房が現在の鏡川(高知市)の名をつけた。これを受けて、鏡川は物部川と改められた。このころ、須崎市の鏡川も新庄川と名を変えた。国道195号線には当時の名を残した香我美橋がかかっている。



▲鏡野小学跡石碑

きょうやしょうがくあと 鏡野小学跡

八王子宮参道には、鏡野の地名からくる、鏡野小学創立の地の石碑がある。



▲大リヨウ東北側の余剩帯跡

ぐんがあと 郡衙跡

土佐山田町岩次集落の北側の集落に、郡衙(郡庁)と考えられる「大リヨウ」「西大リヨウ」と呼ばれる小字がある。大リヨウの東北側には、余剩帯が250mほどあり、湿地または遊水地で、米を運ぶ運河の役割をしたようである。

かがみいわ 鏡岩

片地村誌に「鏡岩、夢野の物部川(当時鏡川と称す)の東崖にあり、夕日を照らし其返照水を西崖の半坂山から見ると鏡の如しと言われ、香美郡或いは鏡の・鏡川等皆この岩が起り」と書かれている(類聚土佐故事から引用)。場所は、物部川合同堰の上流で、江戸時代に山田堰ができ、水位があがり、現在は水没している。かつて、片地地区には、鏡中学校があり、片地小学校の校門前に石碑がある。



▲鏡中学校跡石碑

かがみのごおりせきひ 香我美郡石碑

香長平野を、北は新改の鈴が森、東は香南市野市の三宝山を基準に南北に線を引いた。これが現在の南国農免道路であり、西側を長岡郡、東側を香美郡とした。南国市の農免道路に石碑がある。



にも多く使われている。明治維新後、廃藩置県の際に、香美郡とされた。かつて、香美郡は鏡野と呼ばれていた。鏡野の呼び始めは、承久の乱(1221)で、土佐の畑(幡多)に流された後鳥羽上皇の皇子・土御門上皇が阿波へ遷ることになり、上皇がその道中、月見山(香南市香我美町岸本)で名月を眺め、「鏡野やたが偽りの名のみして恋ふる都の影もうつらず」と、都をしのぶ歌を詠んだのが始めといわれる。上皇が香美を鏡野と思ったのは、物部川の美しい清流を見て、「ここはどこか」と御付きに尋ねたら、「かがみノ」と答えたからではないだろうか(当時は地名や姓には必ずノの助詞を入れていた)。また、土佐南学を再興した谷秦山は、元禄13年、土佐山田に移住した年に、「仲秋の満月に照らされた鏡野には、夜露が光って花のように美しく…」と土佐山田を鏡野と記している。このように諸説あるが、いずれにせよ香美は鏡に由来しているといえる。(香美史談会)